

## 27. 酸性雨等森林衰退モニタリング事業

(国庫委託事業)

新井一司・久野春子

### [目的]

林野庁では、酸性雨等による森林への被害状況を把握するため、1990年度から1999年度まで10ヶ年にわたって全国1200ヶ所の地点の森林を対象にモニタリング調査を実施した。2000年度からは、この追跡調査として第3期モニタリング調査が継続して行われる。現地調査等は、国からの委託により各県が分担することとなっており、東京都では今年度、2ヶ所が該当している。なお、本事業は国庫委託事業であり、今年度調査したデータの解析・公表については林野庁が行うものとされている。

### [方法]

林野庁 研究普及課が定めた『酸性雨等森林衰退モニタリング事業 実施マニュアル 第3期改訂版』に基づいて行った。調査地は、図-1に示した奥多摩湖と拝島の2地点である。奥多摩湖は、スギ人工林であり、拝島は、高木層にコナラを有する落葉広葉樹林である。いずれも5年前と10年前に調査が実施された地点である。

各調査地において、概況調査を行うとともに、0.1haの円形プロットを設置し、毎木調査(樹高1.3m以上の樹木の樹高と胸高直径の測定、ha当たり材積やha当たり本数などの算出、10年前の毎木調査における測定データとの比較)を行った。さらに植生調査(樹高1.3m以下の樹木、草本、シダ植物の植物名とその優占度)、衰退度調査(目視による評価と10年前と同じ位置からの写真撮影)を行った。加えて、A0層と土壌試料を分析用として定められた採取方法によって採取し、前処理を行い、指定された送付先に速やかに送付した。

### [結果]

以上の測定項目についてマニュアルの様式に従って取りまとめ、2000年度の報告書として林野庁へ提出した。



図-1 モニタリングの調査地点